

# いの町新本庁舎建設

基本設計（案）

- 概要版 -

## ■ 基本方針

### concept 「千年和紙に育まれた百年庁舎」

土佐和紙の愛称で知られる高知県の紙の起源は古く、千年余りの歴史があります。この和紙とともに、いの町は生まれ、栄えてきました。この歴史と文化に育まれてきた町の新しい庁舎の建設のコンセプトを「百年庁舎」とします。

いの町の伝統と文化を継承し、これから百年以上にわたり、災害に強くそして永く愛され、生き続けていく庁舎。千年のまちにふさわしい、まちとともに発展していく庁舎の実現を目指し、計画を行います。

### 地震と水害の両方に強い百年庁舎の実現

近年発生が予想される南海・東南海地震に対し、免震構造で耐えるとともに仁淀川の堤防決壊を想定した浸水被害にも耐えることができ、災害時の本部機能維持を最大限に考慮したシステムとします。

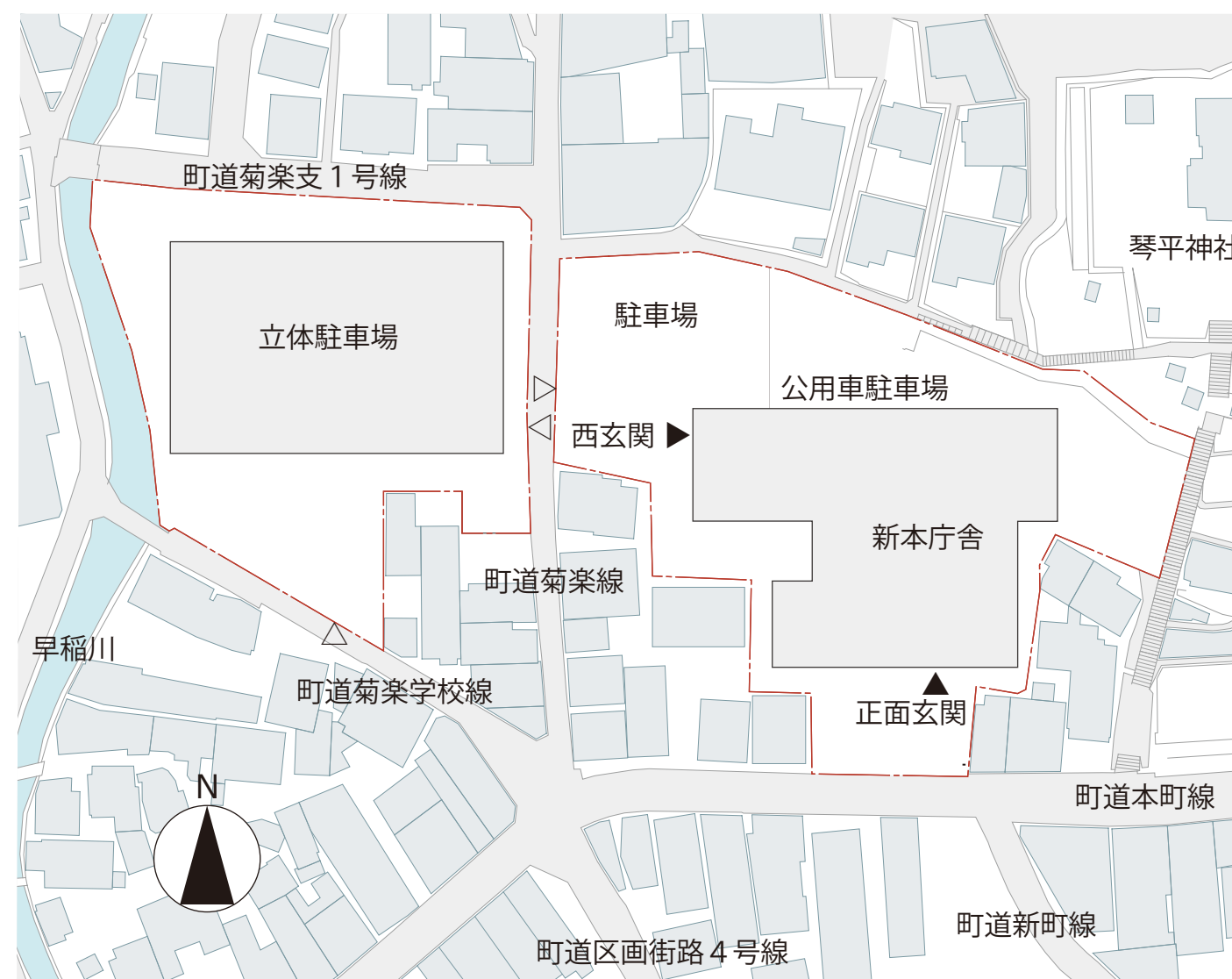
### みんなが入りやすく、みんなで使い続けられる庁舎

誰もが入りやすい段差のないアプローチやひとつのフロアに集約された配置とし、ワンストップ窓口など、誰もが使いやすいユニバーサルデザインの庁舎です。1階には住民との協働スペース「いのホール」を設けイベントなどで利用し、町民の方々のコミュニケーションの場として利用できます。

### 地球にやさしい庁舎

深い軒による日射カットや熱負荷を抑える2重屋根、自然採光、自然通風の取り入れなどいのの自然に適した建物の形状とします。さらに、太陽光発電パネルの採用や雨水の利用、内装材の木質化など地球にやさしいエコ技術をふんだんに取り入れた庁舎です。

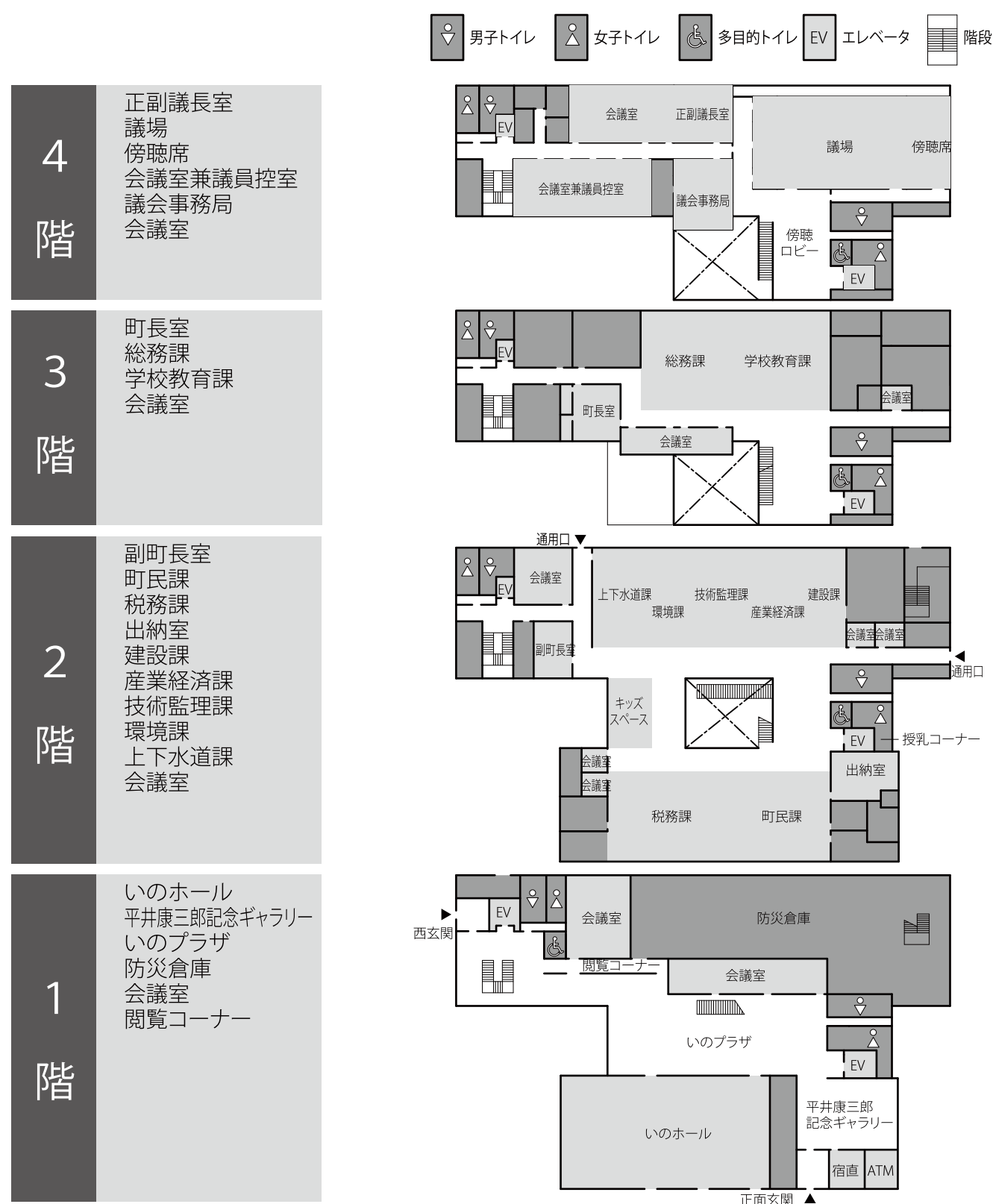
## ■ 配置図 1/1000



## ■ 計画概要

|       | 新本庁舎                   | 立体駐車場                  |
|-------|------------------------|------------------------|
| 敷地面積＝ | 約 4,100 m <sup>2</sup> | 約 3,200 m <sup>2</sup> |
| 建築面積＝ | 約 1,600 m <sup>2</sup> | 約 1,500 m <sup>2</sup> |
| 延床面積＝ | 約 5,200 m <sup>2</sup> | 約 3,000 m <sup>2</sup> |
| 階数＝   | 地上4階                   | 2層3段                   |
| 構造＝   | RC造・免震構造               | S造                     |
| 工期＝   | 平成24年下半年期～平成26年3月（予定）  |                        |

## 平面計画



### 4階：議会フロア（災害対策本部）

- ・傍聴席から議員と執行部側の顔が見えるレイアウトの採用や、子ども連れでも安心して傍聴できる Live 中継のある傍聴ロビーなど、町民に開かれた議会を目指します。
- ・災害時には議場や会議室は災害対策本部として活用し、いの町の災害対策の拠点となります。

### 3階：行政機能フロア

- ・想定外の浸水を考慮し、町民のデータを管理する電算室や施設機能維持のための電気室等の基幹機能を3階に設置し、庁舎機能を保持しつつ迅速な機能復旧を可能とします。
- ・発電機を設けて、ライフラインの断絶時にも連続3日間の電力供給を行います。

### 2階：ワンストップ町民サービスフロア

- ・町民利用部門を2階に集約し、ワンストップサービスの提供を容易にします。
- ・壁がなくオープンな空間とし、見通しが良く案内性の高い町民窓口ゾーンを実現します。
- ・トップライトのある吹き抜けから自然光・自然風を取り入れて明るく気持ちの良い庁舎とします。
- ・キッズスペースや授乳コーナー等を設け、子ども連れでも安心して利用できる庁舎とします。
- ・町産の木材をふんだんに使用し、木の香りに包まれたやさしい庁舎とします。

### 1階：町民交流フロア

- ・「いのホール」は音楽会、会議、講演、各種イベントなど様々な使い方で町民のコミュニケーションの場として利用できます。
- ・道路から1階フロアへは段差のないアプローチを整備し、誰もが入りやすい庁舎とします。
- ・1階フロアは道路より60cm高く設定し、「防災倉庫」については、仁淀川の堤防決壊から想定される最大の浸水レベルを考慮し、さらに床を上げて（道路+2m）浸水被害を回避します。
- ・「いのプラザ」の吹き抜けにより2階の町民サービスフロアへの案内性を高めます。



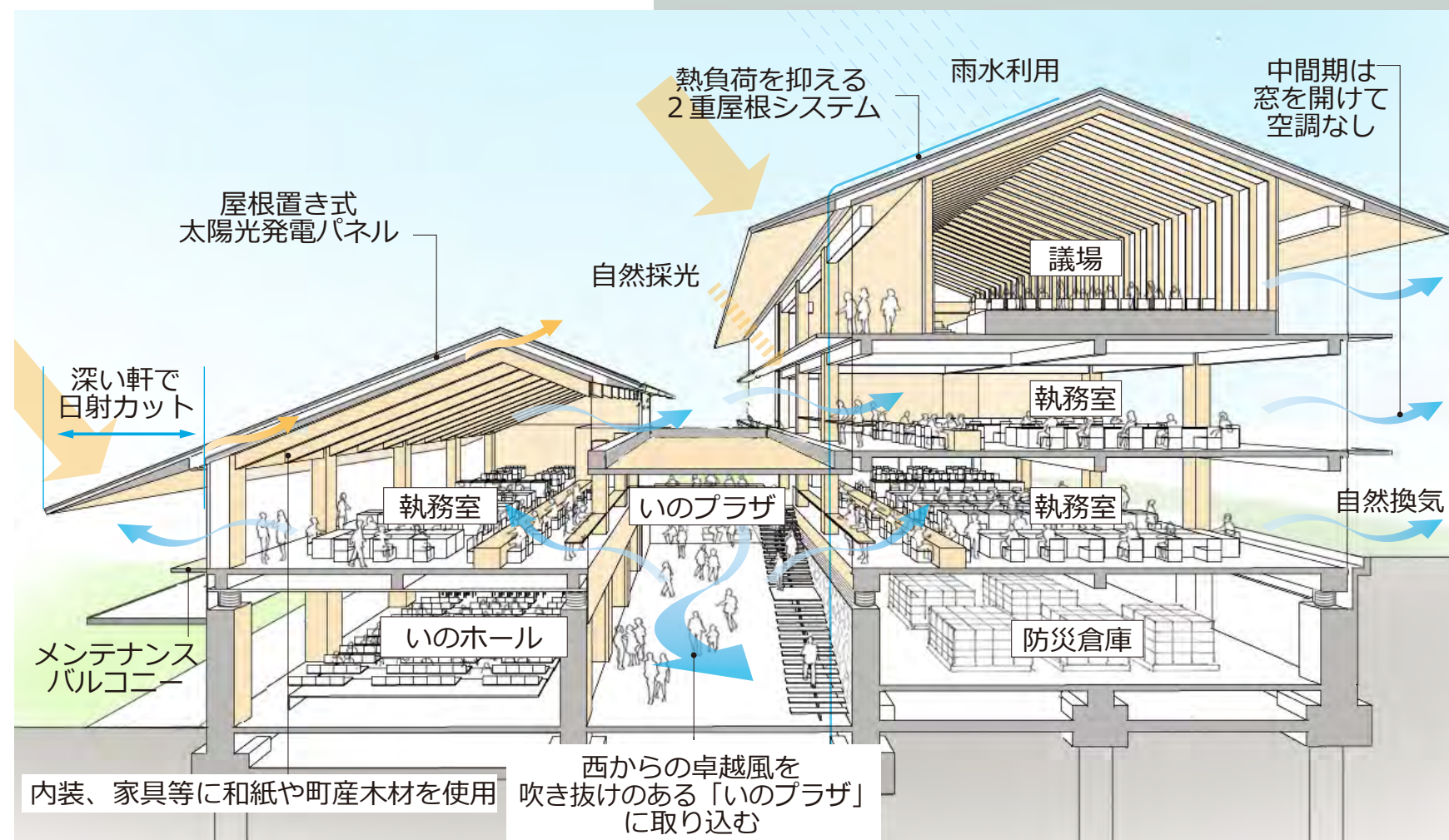
## ■ 外観計画

### いの町らしさを継承

- ・歴史的景観を形成している伝統的建築物群の町並み統一感のある意匠とし、由緒ある町並み景観を継承します。

### 土佐の技と恵みの取り入れ

- ・土佐漆喰、水切瓦等の時間が証明してくれた伝統的工法を用いて高温多雨に百年耐える建築とします。
- ・土佐の地が持つ恵みである、石灰石・美しい水、そして山地に生える豊かな木々を用いて、人の心が潤う庁舎づくりを目指します。



## ■ 環境負荷低減計画

### 地球にやさしい庁舎

- ・土佐の厳しい日射を遮る深い軒等の伝統的な工法と太陽光発電などの新しい技術の両方を取り入れた地域に根差した地球に優しい庁舎とします。

#### 様々な環境配慮手法

- ・自然換気 : 吹き抜けを通して西からの卓越風を取り込み省エネを図ります。
- ・昼光利用 : トップライトや窓からの自然採光に伴う調光制御を行い、照明エネルギーを削減します。
- ・太陽光発電 : 傾斜屋根に最適な角度で太陽光発電パネルを設置します。
- ・雨水利用 : 雨水を一時的に貯留し、植栽や便所の洗浄水に利用します。
- ・深い軒 : 土佐の厳しい日射から庁舎を守り、熱負荷を低減します。
- ・2重屋根 : 屋根を2重化し空気層を設けて、熱負荷を低減します。
- ・木材の利用 : 町産の木材を使用し、CO2の固定化を図ります。
- ・LED照明 : LEDの長寿命性や効率性を活かし、省CO2を図ります。
- ・「見える化」: 庁舎のエネルギー使用量の見える化を行い、職員と町民が共に省エネ活動に積極参加できる庁舎づくりを行います。